

地方都市にみられる中心商店街の衰退に関する現状と課題の探求

三重県立松阪高等学校 郷土地理部

研究目的 地方都市にみられる中心商店街の現状と課題を確認し、その要因と解決策を探究する

研究地域の概要・地域選定理由 三重県松阪市は、面積 623.48 km²、人口 159,073 人、人口県内順位 4 位(2020 年度国勢調査)で、三重県中南勢地域に位置する。三重県に複数ある地方中心都市の一つであるが、松阪市の中心商店街には、全国的に課題となっている中心市街地の衰退減少が見られる。

図1 中心市街地の範囲



図2 中心商店街の範囲



調査・研究手法 国勢調査、自治体実施調査、松阪高校生全員を対象としたアンケート調査(解答数 100、回収率 11.4%)、関係自治体および関係団体聞き取り調査、フィールドワークによりデータを取得し、考察する。



上写真 休日にシャッターが開まっている「ベルタウン」の様子(5月5日撮影)

左写真 近代化改修完成時の賑わい(1980年代)

研究結果〔1〕 松阪市への聞き取り調査から、以下のような衰退の原因が挙げられる。

(1) 人口減少・・・若者の都市部流出による少子高齢化。松阪市内に大学がなくなり、大学生が流出したことも大きく影響している。中心商店街の衰退の現状と、種々の要因について、聞き取り調査等を通じて明らかにすることができた。

(2) ライフスタイルの変化・・・交通手段の発達により大型商業施設に自家用車で行けるようになったことや、EC サイトの発達により買い物のために外出する若者が減少したことで、生活必需品を揃える市場としての役割が低下した。

(3) 小売店舗数の減少・・・グラフ1より上記のことが原因で利用者が減少したことにより、経営維持の難しくなった店舗が店を畳むケースや、収入が不安定であるため子供を後継者とせずに店を畳むケースなどが見られる。

グラフ1 店舗数・空き店舗数 空き店舗率



参考資料 松阪市役所のホームページ、松阪商工会議所ホームページ、松阪市作成「松阪まちなか再生プラン」、松阪高校生全員を対象としたアンケート調査(回答数 100 回収率 11.4%)、松阪市駅前通り商店街「近代化事業とその後」

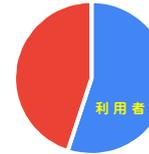
研究結果〔2〕 松阪高校生へのアンケート調査から、以下のような分析を行なった。

(1) 図3、4を見ると、比較的商店街に近い松阪市在住者は約4分の3を占める割合で利用しているのに対し、多気郡の在住者は約2分の1しか利用していない。本来、松阪市中心商店街は、松阪市・多気郡を含む、広域の中心商店街として機能していたはずであるが、現状としては、特に高校生世代では、広域からの集客力は減少し、中心商店街としての機能が低下していると考えられる。

図3 松阪市在住・松高生利用率



図4 多気郡在住・松高生利用率

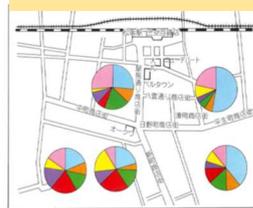


研究結果〔3〕 ヘルタウン振興組合への聞き取り調査から、以下のような衰退の原因が挙げられる。

(1) 客数の減少・・・中心市街地やその付近に住んでいる人が減った。ファミリー層の客が少なく、学生などの若者が訪れる数が少なくなり、昔から利用している年齢層の客が多い。また、EC サイトを利用し物品を購入する人の増加により、若い世代の利用者が減少したことも挙げられる。

(2) 品物の変化・・・以前は衣料品、食料品が一定の割合を占めていたが、今は飲食店が大半を占めている。衣料品、食料品店が減った理由としては、商店街が買い物の中心としての役割を失ったことが大きく関係する。また、飲食店は、商店街が衰退しても駅近というメリットを利用し、経営し続けられるため、増加した。

1980年代の店舗種別割合



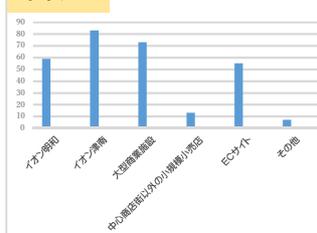
グラフ2 高齢化率の推移 中心市街地・市内全体



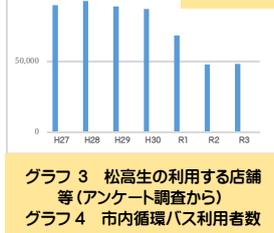
(3) 商店街の需要の変化・・・自家用車を持つ家庭の増加など、交通手段の発達により近隣の商店街に訪れなくても、遠くても1か所ですべての種類の商品を購入できる大型商業施設に行く人が増え商店街の需要が低迷した。

(4) 後継者について・・・グラフ2を見ると、高齢化率が松阪市よりも中心市街地のほうが深刻であることがわかる。商店街でも、経営者の高齢化が進んでおり、さらに、後継者不足が問題になっている。その理由としては、今は昔に比べ店舗と一体型になっている住居の減少により、後継者に継がせる意志を強く持つ人が減少したこと、起業しやすい環境下にある中で、既存の店舗にこだわる必要性を感じる人が少なくなったことが挙げられる。

グラフ3



グラフ4



グラフ3 松高生を利用する店舗等(アンケート調査から)
グラフ4 市内循環バス利用者数

考察 中心商店街の衰退の現状と、種々の要因について、聞き取り調査等を通じて明らかにすることができた。現状では、松阪市・多気郡等には、大型の商業施設も複数立地しており、松阪駅前を中心とする商業地区が、広域の中心商店街として再活性化することは、かなり難しい状況にある。今後は「松阪市を訪れる観光客を、重要なターゲットとする」「ネット販売等に注力する」「地元商店街としての役割に特化する」などの、対応策から新たな方向性を探っていくことになるのではないだろうか。